

本郷高校新聞

本郷高等学校新聞委員会
-Hongo High School Newspaper Comittee-

発行所 東京都豊島区駒込4-11-1
本郷高等学校 電話03-3917-1456
- 特別号 No. 2 -
記事執筆 中学3年4組 細田 權

第1回プログラム 7月17日(水) MEdit 医学授業 於：本郷高校

順天堂大学高大連携プログラムの第一回授業として「MEdit 医学授業」が本郷高等学校で行われた。今回の授業をしてくださったのは、順天堂大学附属練馬病院で病理専門医として活躍なさっている、小倉加奈子先生と発知詩織先生のお二人である。ユーモアあふれる興味深い授業に心を奪われた。

まず、病理医とは各診断科が採取した検体をもとに、病気が良性か悪性かを判断する仕事であることを学んだ。授業の冒頭で小倉先生が病理医を知っているかと全員に問

いたが、僕も含めほとんどの生徒が知らなかった。それもそのはずで、病理医は全国に二二〇〇名程度しかおらず、いわば絶滅危惧種のようなものであるということを知って驚いた。がんの治療方針を決めていく際に、これらの診断は必要不可欠なものであり、非常に重要であることを教わった。その重要性が増す中、病理医不足は今の医療の問題の一つであると思っ

順天堂大学との高大連携
2024年度プログラム実施される
二〇二四年度の順天堂大学との高大連携プログラムが、7月17日(水)「於本郷高校」・8月5日(月)「於順天堂大学」の二日にわたって行われ、本郷からは中3〜高3まで23名が参加した。

高大連携とは？ (昨年度「連携号」より)

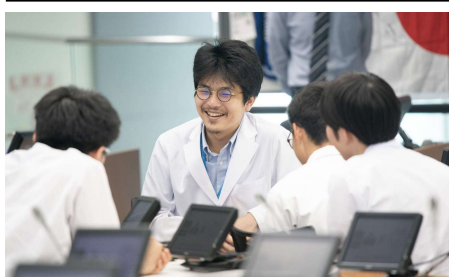
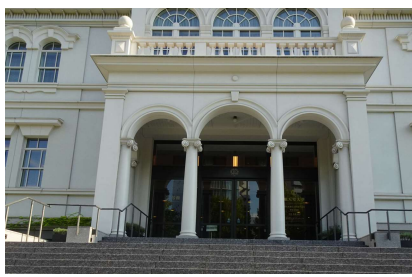
「高大連携」とはどのようなものなのだろうか。(中略)
まず、高校、学生側のメリットについて触れると、それは「大学を知ることができる」ということだ。(中略)
「高大連携」とは、実際に御茶ノ水にある順天堂大学を訪れ、第一線で活躍されている先生のお話や、本校卒業生のお話等、より濃く「医療」という分野を知ることができた。そして、大学側のメリットとしては、意欲のある学生を集めることができるということである。(中略) 高大連携で大学の内容・信念を知って入学した学生は、入学後も意欲的に学業に励むことができるだろう。このような、双方のメリットがある。



来校くださった小倉加奈子先生(左)・発知詩織先生(右)

第2回プログラム 8月5日(月) 順天堂大学訪問

於：順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス



OBとの交流

最後に現在順天堂大学に通っている本郷のOBの方々と交流をした。受験勉強や大学での生活などについて細かく教えていただき、今まで自分の中でイメージしていたものがよりリアルなものとなった。

最後に

今回の順天堂大学高大連携プログラムで、実際に活躍されている先生方から医者求められる様々な能力を学ぶことができ、とても有意義な時間になった。医者への道はとも厳しいものであるが、医者になりたいという気持ちがより一層強くなった。今回の企画に携

謝辞

今回の記事は、中学3年4組細田権君が執筆してくれました。改めて感謝いたします。
(中34 細田権)



ありがとうございました。(最後に全員で)

一人の役に立たなくてはならない時必ず訪れる

〜内藤俊夫先生による特別講演〜



プロジェクトの第二回は順天堂大学を訪問した。とても大きなキャンパスの前に立ち、厳粛な気持ちになった。

初めに、内藤俊夫先生による特別講演が行われた。冒頭で内藤先生は、誰かの役に立つことをしたことはあるかと僕たちに問いかけた。先生は、東日本大震災が起こりボランティアとして東北地方へ行ったときの話をしてくださった。救助を待つ人たちが溢れる避難所を訪れると、人々は医者に来たと言って助けを求め、この瞬間、混乱している何千人という人を束ねるリーダーに先生はならざるを得なくなったそう。いつかは分らないが、このような人の役に立たなくてはならない時が人生で必ず訪れるという言葉が印象に残った。そして、その時に勉強は必ず役に立つということ、未来の医療を担う僕らに伝えてくれたのだと思った。

医療機器の体験

次に僕たちが訪れたのはシミュレーションセンターである。ここでは、CTを利用した医療行為のシミュレーションを体験した。目の前で溺れていくおじいさんや、無理やり食べ物を食べさせられる患者さんの映像を見て、医者が大切な命を預かることへの責任を感じた。さらに、胸骨圧迫や気管挿入という実技体験をした。今回はどちらもマネキンを使っている体験であったが、実際に相手はもちろん人間である。現実においてそれを行う医者に対して尊敬の念を抱いた。

医学の歴史

〜「日本医学教育歴史館」を訪ねて〜

次に日本医学教育歴史館を見学した。ここでは解体新書など興味深い資料が展示されており、医学の歴史を肌身で感じることが出来た。また、医学の歴史の映像や、歴史館の周りに作られた長い

「医師に求められるのはコミュニケーション力」

〜スポーツドクター 福島理文先生によるOB講演〜

本郷高校のOBで、パリ五輪サッカー日本代表のチームドクターを努めた福島理文先生の講演を受けた。我々が思っている医者とはまた別の形であるスポーツドクターとして活躍する福島先生の、医者求められるコミュニケーション力についての話が印象的であった。スポーツドクターの場合は選手のケアが最も大切であり、そのために

次は日本医学教育歴史館を見学した。ここでは解体新書など興味深い資料が展示されており、医学の歴史を肌身で感じることが出来た。また、医学の歴史の映像や、歴史館の周りに作られた長い

